

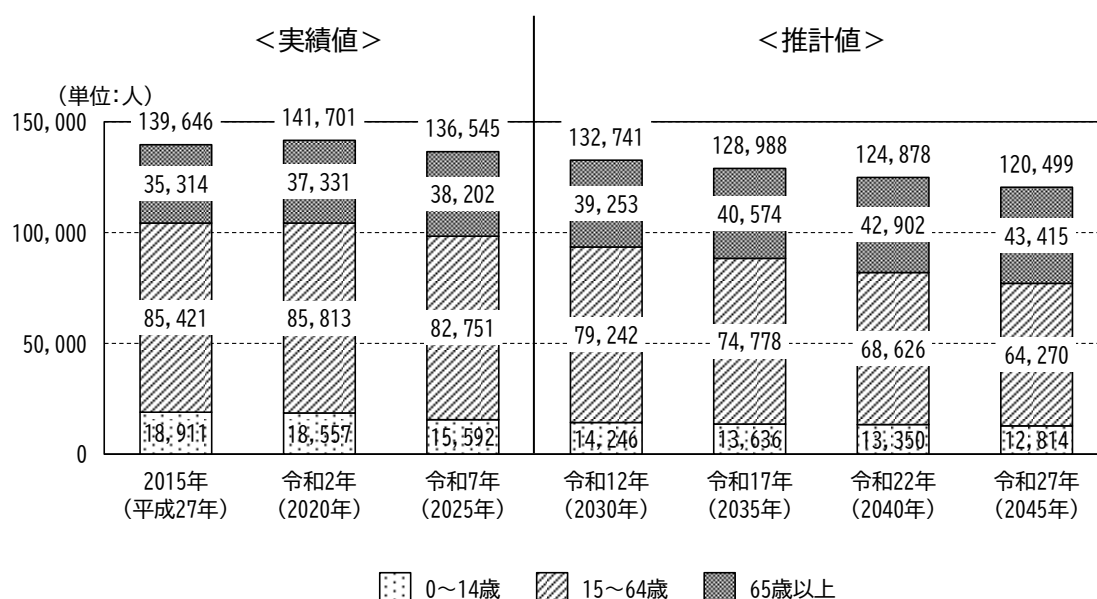
障害のある方を取り巻く現状

1 人口と障害者手帳発行状況

(1)人口の推移と推計

本市の人口は令和8(2026)年3月31日現在では136,545人となっています。年齢3区分別でみると、0～14歳(年少人口)および15～64歳人口(生産年齢人口)は、減少傾向にありますが、65歳以上人口(高齢人口)は増加傾向にあります。

少子高齢化の影響は、障害分野にも影響を与えており、障害者本人とその介護を担う家族の「高齢化」が加速しています。いわゆる「8050問題」や「老老介護」などの課題が深刻化するなか、すべての団塊の世代が75歳以上の後期高齢者となった「2025年問題」がいよいよ現実のものとなり、支援体制の構築は待ったなしの状況にあります。



出典：実績値－国勢調査

推計値－国立社会保障・人口問題研究所

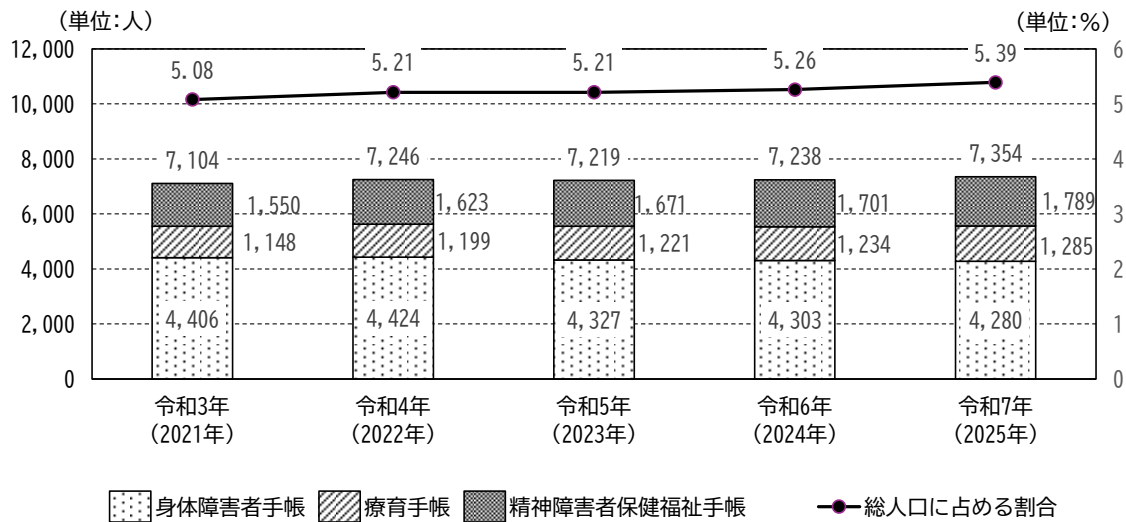
「日本の地域別将来推計人口 令和5(2023)年推計」

(2)障害のある人の状況

令和8年(2026)年4月1日現在、本市には、身体障害者手帳所持者が4,280人、療育手帳所持者が1,285人、精神障害者保健福祉手帳所持者が1,789人で、合わせて障害者手帳を所持している人が7,354人います。

障害のある人は、やや増加傾向にあります。総人口に占める割合は、令和8年(2026)年4月1日現在5.39%となっています。

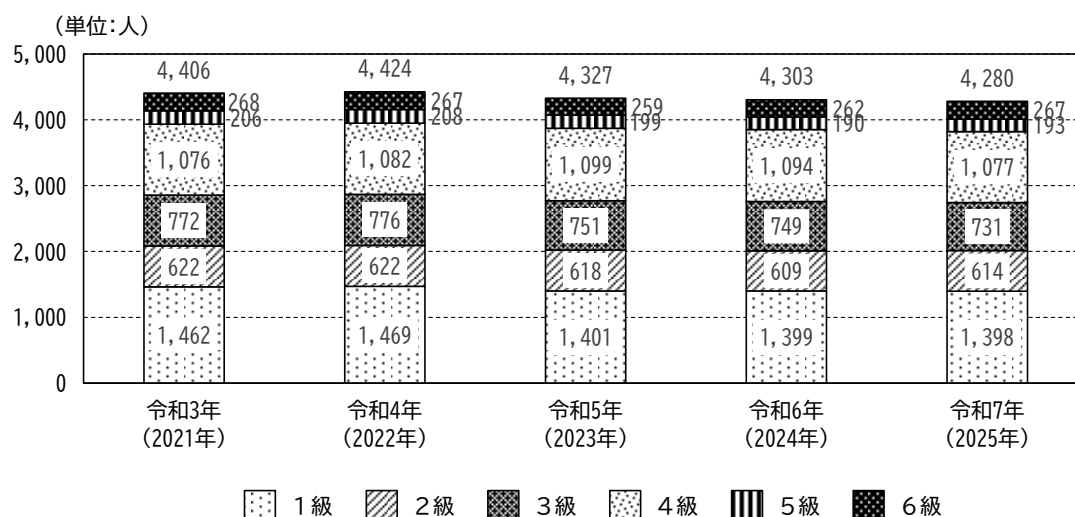
障害種別でみると、身体障害者数は減少傾向にありますが、療育手帳所持者数と精神障害者保健福祉手帳所持者数は増加傾向にあります。



出典：桑名市調べ (手帳所持者数：各年3月末)
(総人口に占める割合：各年4月1日)

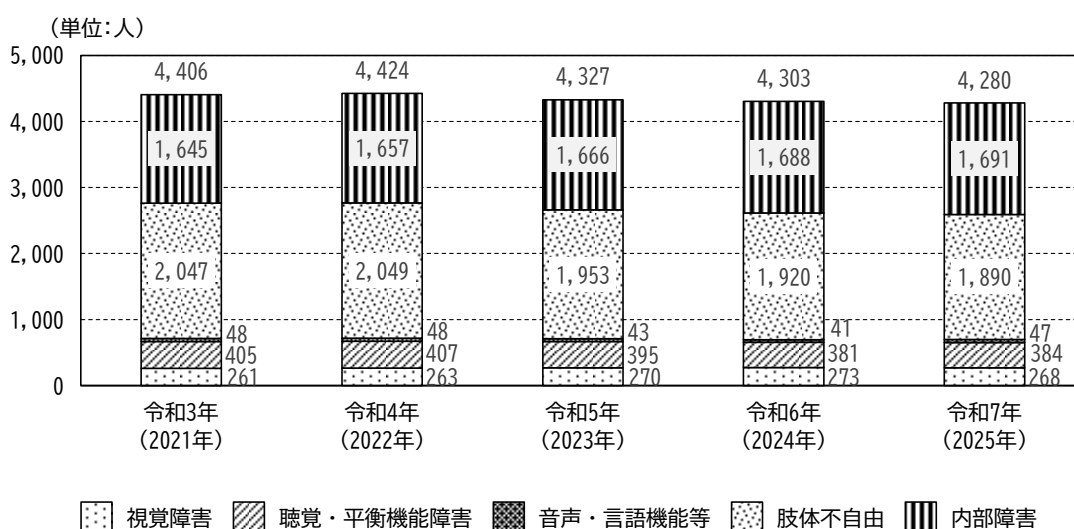
各年4月1日現在の身体障害者手帳所持者を障害等級別でみると、どの年も「1級」が最も多くなっています。

その他の級をみても、経年で人数に大きな差異はみられません。



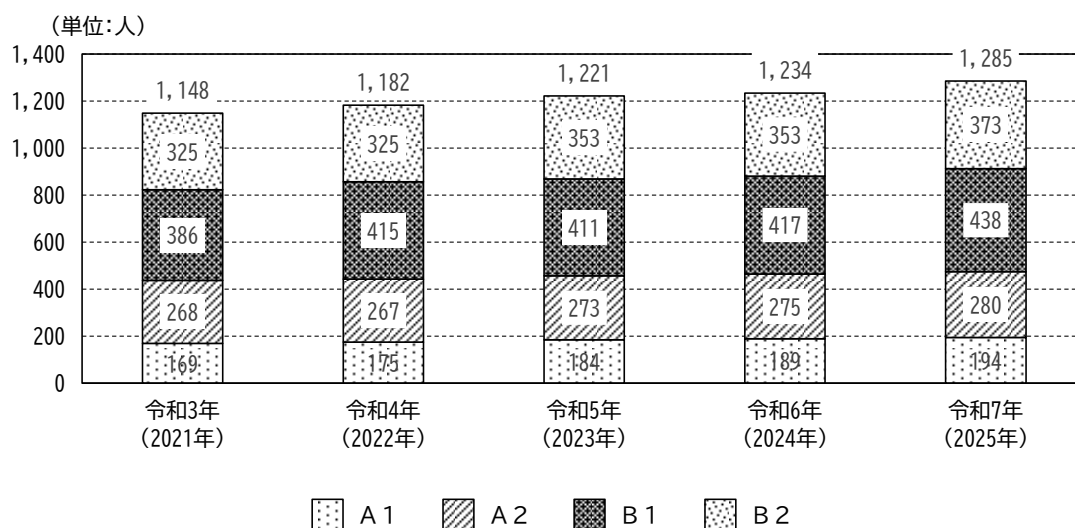
出典：桑名市調べ（各年3月末）

各年4月1日現在の身体障害者手帳所持者を障害の種類別でみると、どの年も「肢体不自由」が最も多く、身体障害者全体の約5割を占めています。これに内部障害が続いています。



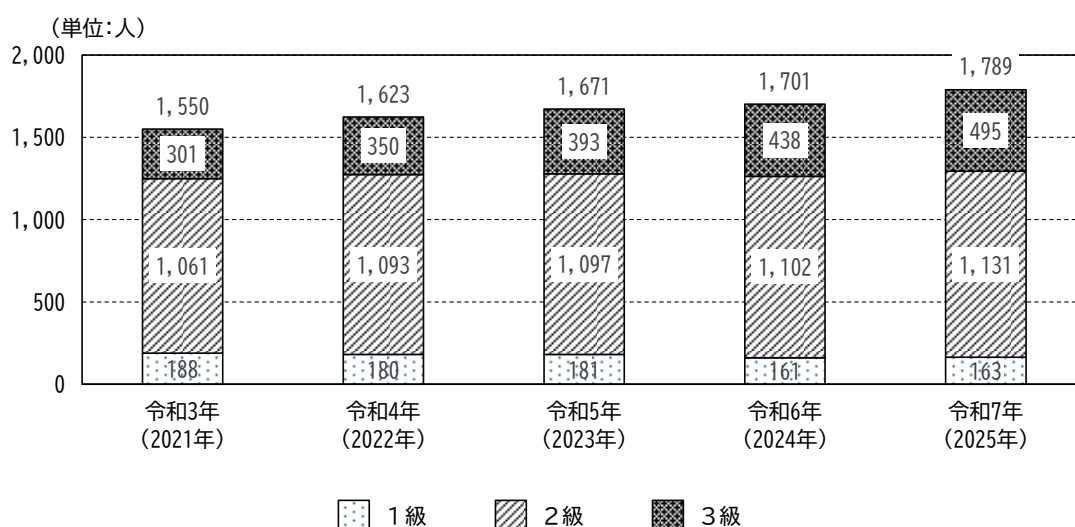
出典：桑名市調べ（各年3月末）

療育手帳所持者は増加を続けており、令和8年(2026年)4月1日現在では1,285人となっています。障害の等級別でみるとA1(最重度)194人、A2(重度)280人、B1(中度)438人、B2(軽度)373人となっています。



出典：桑名市調べ（各年4月1日）

令和8年(2026年)4月1日現在の精神障害者保健福祉手帳所持者を障害の等級別でみると、「2級」が1,131人と最も多く、精神障害者全体の約6割(63.2%)を占めており、次いで「1級」が163人、「3級」が495人となっています。令和3年(2021年)からの推移をみると、「2級」「3級」が増加傾向となっています。



出典：桑名市調べ（各年4月1日）